



平戸市での就農者数推移(年間) 単位:人

種目	平成26年~ 30年平均	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和元年~ 5年平均
繁殖牛	4.6	3	6		1		2.0
イチゴ	0.2			1	2	1	0.8 ↑
たまねぎ	0.6				1		0.2
アスパラガス	1.0	3	6	5	6	1	4.2 ↑
その他	1.0		2				0.4
合計	7.4	6	14	6	10	2	7.6
うちUターン	2.0		4	1	3	2	2.0
うちIターン	0.0	2	2	1	6		2.2 ↑

農を目指すことが可能です！
 平戸市の直近10年における新規就農者は単年平均7.5人！品目の傾向としては、アスパラガスとイチゴでの就農が増えています。また、Iターンの就農者も増え、農家出身でなくても産地の協力のもとで就農を目指すことが可能です！

ひらど de 農業
新しい仲間が続々と
New Farmers have joined

アスパラガス部会 -Asparagus Division-

野菜は毎作定植する品目がほとんどですが、アスパラガスは同じ株を長く使い続けることができ、しかも、ハウスでの栽培により4月~10月ごろまで長期間出荷ができるため、安定した収入が得られることが大きなメリット。

軽量野菜のため、収穫物を取り扱いやすいというハードルの低さも新規生産者を増やす理由になっています。

令和元年以降、平戸市のアスパラガス農家の新規就農者は全部で21人。アスパラガス部会には現在42人が所属し、半数が新規就農者となっています。元の職業は、販売業やサラリーマンなど、農家の出身ではない人も活躍しています。

今回は、そんな多様な部会のメンバーをまとめるアスパラガス部会長に、新規就農者に対するサポート体制について話を聞いてみました。



JAながさき西海
 アスパラガス部会平戸支部
 支部長 たていし かずひろ **立石 一洋**さん



部会では、生産拡大を目的に、現地検討会や目揃い会などの活動を行っています。その中で、それぞれのハウスへ部会員と県・JAの技術者が出向き、意見交換・アドバイスを行っています。

近年、新規就農者も増え部会が若返っているのです。活気のある活動をしていきたいです。数量、単価を上げていけるよう、一緒に頑張りましょう！

特集 **ひらどde農業デビュー**

~新規就農者の取り組み~

☎ 農業振興課農山村対策班 ☎22-9151



次代につながる農業を

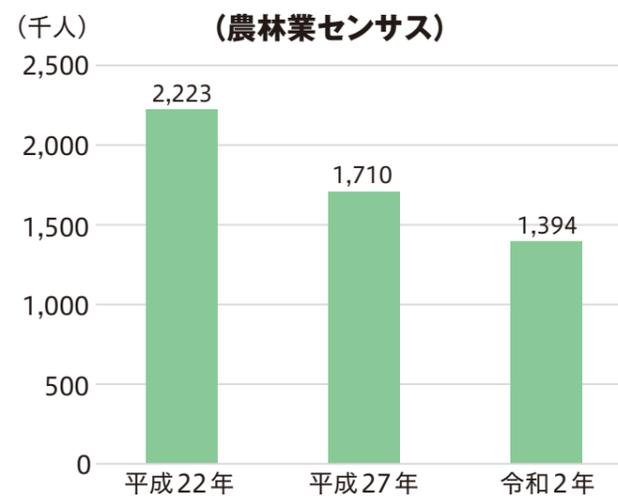
現在、平戸市では、農業就業者の減少や農業従事者の高齢化が進んでいることから、将来の農業の担い手となる新規就農者の確保・育成を重要な課題と位置づけ、さまざまな取り組みを進めています。

特に、平戸市の地域振興品目である「イチゴ」、「アスパラガス」については、単一品目でも一定の所得が見込める

ことから、新規就農者が取り組みやすい作物として推奨しており、生産部会と連携した技術研修や、ハウス整備費用の嵩上げ補助による初期投資の負担軽減を支援しています。

そこで今回は、近年新規就農した皆さんの取り組みの状況や、平戸市における就農までの流れについて紹介いたします。

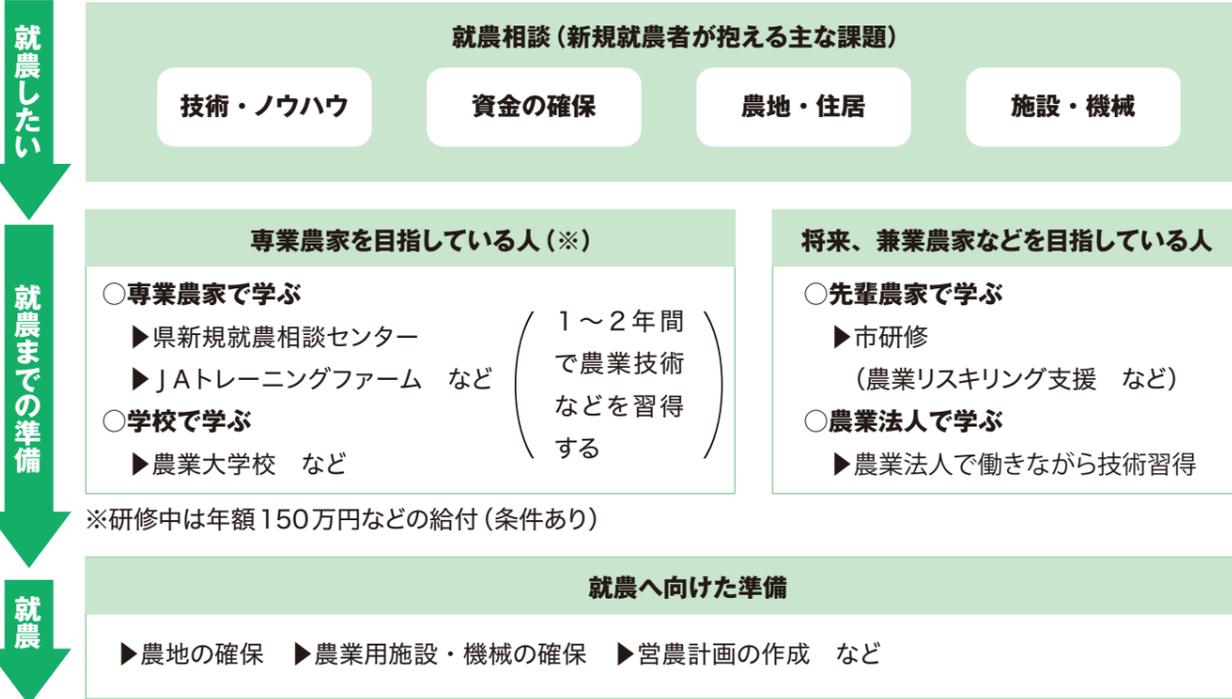
基幹的農業従事者数
 (農林業センサス)



※基幹的農業従事者とは
 15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として自営農業に従事している人。

農業の始め方(新規就農の流れ)

農業を始めたいけど、どうすればいいかわからないという皆さんへ、充実のサポートを紹介します。



自営で就農

雇用就農

就農に興味がある皆さん!

平戸市就農情報サイト

平戸 Nova

就農した皆さんの喜びや苦労話など、生きた声を掲載しています。

こちらからアクセス▶



就農相談窓口 農業振興課農山村対策班 ☎22-9151

「息子夫婦が帰って農業やりたいって言ったな」「平戸で農業したいな」「姪が無職だったな。農業せんかな?」…まずはご相談ください!

- ▶ 経営知識や技術の習得は? → 研修制度やインストラクターを斡旋。
- ▶ 研修中の生活費は? → 支援制度をご紹介。
- ▶ 農地は?住居は? → 農地・空き家バンクなどで探します。
- ▶ 施設や機械の購入資金は? → 補助制度や資金貸付制度をご紹介。



ひらど de 農業 未経験でも大丈夫! マンツーマンで技術指導

イチゴ部会 - Strawberry Division -

真っ赤で甘酸っぱい果実が魅力のイチゴは、好きな果物ランキングで常に上位にランクインする人気の果物。平戸市で栽培されている品種は「ゆめのか」が多く、11月中旬～6月中旬に主に関西市場に出荷されています。令和元年以降、4人がイチゴ農家として新規就農しました。栽培管理以外にもパック詰めなど出荷作業に労力を必要とするため、夫婦や家族との共同で経営を始める人が多い傾向となっています。今回は、神奈川県から移住し、農業研修後、イチゴでの新規就農に取り組んでいる村崎さん夫妻と師匠の松元さんに話を聞いてみました。

就農者の声



むらさき りょうすけ 村崎 亮介さん

- Q 農業の前は、どんな仕事をしていましたか?
- 亮 会社の資格取得などのコンサルタントをしていました。
- 菜 光学顕微鏡などのレンズ加工の仕事をしていました。
- Q なぜ農業を始めようと思ったのですか?
- 亮 2人で「何かしたい」と思い、働き方や環境から「農業だ!」と思いました。
- Q いくつかの候補地から平戸を就農地を選んだ決め手は何ですか?
- 亮 「イチゴを作りたい」「田舎に住みたい」という希望から、静岡県や福岡県、長崎県をたくさん回り、農家さんの話や環境が気に入り、最終的に妻が「平戸にしよう」と。
- Q 農業の研修で大変だったことはありますか?
- 亮 慣れない作業だったので、腰や膝を痛めました。関節が痛いです。
- 菜 スズメバチの駆除です。イチゴを育てるのに大切なミツバチを攻撃してくるスズメバチを、虫取り網で捕まえて足で踏みつぶす。この作業があると知っていたら、いちご農家になるのを迷っていたかもしれません(笑)。でも今はもう慣れました。
- Q 今後の目標をお聞かせください!
- 亮 県の基準というものがあるので、まずはその収量目標達成を目指したいです!



むらさき なお 村崎 菜緒さん



▲師匠からマンツーマンの指導を受け、イチゴの苗づくりから難しいパック詰めまで、さまざまな技術を習得しました。

師匠の声

- Q 研修生を受け入れて心境の変化などはありましたか?
- 松 覚悟がいますよね。自分たちがしっかりしていないと教えることもできない。
- Q イチゴ農家への就農を考えている皆さんへ、いちごの魅力を教えてください!
- 松 売り上げが通帳に入った時は嬉しい(笑)。また、11月ごろにイチゴが赤くなるので、その光景を見ると嬉しくなります。そして、忙しい時期は「終わったら従業員さんと旅行に行くぞ」とやる気を出します。
- Q 師匠である松元さんから、就農する村崎さんへメッセージをお願いします!
- 松 自分の頑張り次第!それが1番ですね。基本的に忠実に頑張ってください。



まつもと ともゆき 松元 朋幸さん